

令和6年度第3回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和6年8月26日（月）10時00分～11時30分
開催場所	横浜市役所 27階N03会議室
出席者	岡部委員長、六川副委員長、恵志委員、木村委員、宮尾委員、恵良氏、菅野議長
欠席者	野原副委員長、杉崎氏
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 (1)今後の事業評価について (2)旧第一銀行横浜支店運営事業者公募の結果について 2 その他
決定事項	
事務局	<p>【開会】 ○令和6年度第3回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p>
永井部長	<p>【部長挨拶】 ○文化芸術創造都市推進部長から挨拶が行われた。</p>
事務局	<p>【資料確認】 ○配付資料の確認が行われた。</p>
事務局	<p>【定足数の確認】 ○委員6名中5名が出席（うち2名、オンラインで出席）しており、委員会は成立。</p>
菅野議長	<p>【事業評価分科会議長挨拶】 ○菅野議長から挨拶が行われた。</p>
事務局	<p>【会議の公開・非公開】 ○本会議の公開・非公開について、横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により、審議会等の会議は原則公開だが、例外が認められており、本日の審議事項(2)は、同条例第7条第2項に規定の非開示情報に該当するものが含まれていることから非公開としたいと考えている。よろしいか。</p> <p style="text-align: center;">（了承）</p>
岡部委員長	<p>審議事項（1）：今後の事業評価について ○審議事項(1)今後の事業評価について、事務局から説明をいただきたい。</p>
事務局	<p style="text-align: center;">＜事務局より資料3に基づき説明が行われた＞</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの事業評価の流れを振り返り。 ・委員会や分科会で出た意見（以下主な意見） <p>評価手法は、委員会で一括して事業評価を行うことにより、委員会と拠点との距離が離れることになるため、実情を把握できる仕組みを導入したほうが良いと意見があった。</p> <p>各拠点のアウトカム指標は、委員の助言をもらいながら、時間をかけて丁寧に議論したほうがよいという意見があった。</p> <p>指標については、運営開始時点で設置していない指標を事後的に一律に求めるのは難しいのではないかと。数値以外も評価するという共通認識が必要という意見があった。また、人材育成など翌年に効果がすぐ出ない取組についても配慮できるとよいという意見があった。</p> <p>評価シートは、拠点ごとに特徴、強みが異なるため、それらが適切に評価されるシートにしたほうがよいと意見があった。</p> <p>事務局 ○こういった意見を踏まえて、令和7年度以降の事業評価の方向性を事務局で整理した。</p> <p>岡部委員長 ○本日、事業評価分科会の菅野議長にも御出席いただいている。補足をお願いしたい。</p> <p>菅野議長 ○今、事務局から説明があったように、統一的なフォーマットを導入した上で、新しい評価シートが適用されるということだが、事業評価分科会でも様々な議論があった。</p> <p>これまでの評価において、書きぶりや定量評価の目標になる数値的なデータが、どうしてもそれぞれの拠点で異なってしまうという課題があった。それから、自己評価や総評についても、根拠となる具体的な数値の記載が少ないということがあり、客観的な評価がなかなか難しかった。評価の本来の目的は常によりよい改善を目指していくところにあるが、具体的に改善という形まで実現できにくい状況であった。そういった課題をどう変えていくか、どのように見える化をするかが大きな課題だった。</p> <p>そこで、まずはフォーマットの統一。それに加えて、評価のプロセスとゴールの設定。それから、最終的にその評価に至るところではあるが、現在、欧米で、まずステークホルダー同士、つまり評価される側だけではなく評価する側も含めて、評価のプロセスをどのように共有していくかということが非常に重視されるようになってきている。そういったことを、セオリー・オブ・チェンジ、変革の理論という考え方を取り入れた形でのロジックモデルもできないだろうかという議論もあった。</p> <p>以上から、目標設定は、横浜市と拠点で、まずゴールの共有について目指すべきところを確認し合いながら進めるという方向が示され</p>
--	--	--

		<p>た。</p> <p>それに加え、全体評価のプロセスは数値的なことがかなり含まれるようになっているが、1つ留意しなければならないのは、数字が独り歩きしていかないこと。それから、評価のプロセスをなるべく多くのステークホルダーの中で共有していくこと。最終的な変化は、何を改善し、来年は何を目指していくべきかを具体的に落とし込んでいくこと。そういったプロセスを、今回の新たな評価シートを基にして、具体的な変化、それがまた横浜市全体にどのようなインパクトをもたらすかをも目指して評価していく。</p> <p>評価についても、全体のアウトプット、アウトカムを勘案した上での価値判断。その拠点がどのような価値を持っているかにつなげてほしいと分科会では議論があった。</p> <p>補足は以上。</p>
岡部委員長		○それでは、今までの説明を踏まえて、御意見、御質問等があればお願いしたい。
恵志委員		○フォーマットの統一や、ゴール設定をするという点においては、そのようにしていく方が良いと思うが、数値データを集めることは拠点への負担が大きいのではないかと。公共劇場周りの評価においても、アートにおいて数値的な目標を設定して、かつ、そのデータを取っていくことにかかる時間が大変な負担になっている。負担面の懸念についてどうお考えか伺いたい。
木村委員		○私も、その数値化については、少し気になっていた。数が多ければいいというものではないのが、創造活動の現場のリアルな感覚、簡単に測り切れない、数値化できにくい部分をどう拾い上げるのか。そのクオリティの部分をどう評価していくのか。シンプルな数値にすればするほど、そういう非常に繊細な部分がないがしろになってしまわないのかというのが懸念としてあった。
菅野議長		○お二人の委員から御指摘いただいている点は、一番大切なことで、これは前委員会、それから事業評価分科会でも、常に俎上に上がってきている。この点は、やはり委員会や事業評価分科会でも重要視していることで、具体的な参加者や実施回数、一般的な数値は上がってきたが、それをどういう数値目標にしていくか。関係者同士が一緒になってそういった目標も設定していく方向で議論が出てきている。
		<p>拠点ごとにとっていく目標数値も変わってくると思うが、共通で取るべき数値、拠点ごとに異なる数値目標、この両面から考えていく必要があるのではないかと議論があった。</p>
事務局		○菅野議長から御説明いただいたが、主な意見の2つ目のところの「各拠点のアウトカム指標、委員の助言をもらいながら時間をかけて丁

		<p>寧に議論した方が良い」というのがまさしくそれにあたる。</p> <p>どういった指標がいいのかという具体的な議論までは、まだ及んでいないが、拠点によって何をアウトカム指標にするのかというところは違って来るため、そこはじっくり市と拠点で話し合っ決めてつ、やっぱり外部からの意見も重要なので、分科会の委員の方に入っただくという話になった。</p> <p>ただ一方で、市全体として求められているデータある。おっしゃるとおり、その拠点に大勢の人が来たから目標達成ということではないと当然我々も分かってはいる。ただ、やっぱり市の税金を使ってやっている以上、求められているデータは必要。</p> <p>芸術文化創造都市施策は、全体的に認知度が低いことが大きな課題で、やはり上げていかななくてはいけない、その指標は取っっていかなければいけない。一概には言えないが、拠点に何人来たかというデータは、全体として最大限取るべき重要なデータと今考えている。</p>
	岡部委員長	<p>○僕も数字は少々気になっており、市民にどのように還元できるか、どのような価値が生み出していけるかが一番大事なところとだと考えたときに、例えば各拠点が行っている事業を通して市民の方にどんな形のインパクトを与えられたかなど、そういう何か強いストーリーのようなものを、書ける部分があったらどうか。</p> <p>コミュニティオーガナイズという手法があるが、色んな人の共感が得られると、他の市民の共感に繋がり、それが参加につながる。発信やアウトカムにもなる。強い思いとして発信する素材になると思う。それもある意味での量だと思った。</p>
	菅野議長	<p>○これまで定性評価という言い方をしていたかと思うが、評価シートにはそういったストーリーを書く項目もある。</p>
	事務局	<p>○然り。</p>
	恵良氏	<p>○これまでのナラティブを中心とした評価は案外重要で、つまり、ある種、物語として表現したほうが伝わりやすい。物語がしっかりなければ、しっかりした計画も作れないと思っている。</p> <p>また、スケジュール表に書かれているが、拠点との意見交換は非常に重要。これは拠点の全体を評価するときの議論になるが、各拠点には、それぞれメインのコンテンツとミッションがある。拠点全体を総合して見るとほとんどの要素を持っている。</p> <p>つまり、それぞれが得意なメインの足し算や掛け算で総合化されたときに拠点全体の成果が上がってくる見せ方が効果的である。そんなことを意識して、拠点全体の成果を頭に置きながら、全ての拠点に芸術性と社会課題解決などの全てを網羅的に求めることにならぬように、気をつけなくてはならない。</p>
	事務局	<p>○第1回目の委員会でも、創造都市のこれからをどうするか御相談さ</p>

		<p>せていただき、拠点の役割分担をしないといけないと御意見をいただきました。現在内部でも検討しているが、まだ整理ができていない。恵良委員がおっしゃるように、拠点全体でどういう価値をつくっていくかを少し整理したいと思っている。それぞれの拠点で役割があると思うので、そのあたりも、まずは当課の拠点担当者で共有して、その上でそれぞれのアウトカムを設定していく。またそれも丁寧に拠点とも共有していくところを、今回、設定するに当たっては、丁寧にやっていきたいと思っている。</p>
	恵志委員	<p>○データは取っていくほうが良いと思っている。定量評価と定性評価と両方やっていくのが今の流れだ。それはとても重要だとは思いますが、現場スタッフがどのような数字を取ったら良いのかを検討し、その数字を取る作業をすること自体がすごく大変なのではないかというのが私の懸念点だ。</p> <p>現場スタッフはデータを集めるプロではない。集めるデータの種類や取り方など、データ収集の専門家であるコンサル的な人がサポートすべきではないか。拠点の目標に沿った数値データとして何をとれば良いかの検討は専門家に任せ、現場はその指示によって、来場者等に適切な形でデータを取っていく方が役割分担等しては現実的ではないか。</p>
	事務局	<p>○御懸念点も、おっしゃるとおりだと思っている。まず、拠点と一緒にアウトカムを設定する際に、どのように取るかも含めて議論していきたいと思っている。</p> <p>また、拠点で取れる数字と、横浜市の調査で取れる数字もあると思うので、全て拠点にやらせるつもりはなく、取り方も含めて一緒に議論しながら進めたいと思っている。</p>
	恵志委員 六川副委員長	<p>○承知した。安心した。</p> <p>○評価シートを今回変えていこうという提案だが、個人的には、評価シートはなるべくシンプルなほうが良いと思っている。イコール事業者の負担も減る。初期のアウトカムについて議論になっているが、果たして細かく取る必要があるのか。細かく取った結果、数値目標が足りなければ、それに対して改善策をどう求めるとか、そちらのほうが大事だと思う。だから、成績表を求めるような形だとあまりよくないのではないかなと思っています、それは他の委員の御意見と共通するところだ。</p> <p>創造都市の施策は何を求めるかをベースに置きながら、この評価シートを書いてもらわないと、なかなか議論がマッチングしていかなくなる。</p> <p>いずれにしても、最終的にはそれぞれ市民に愛される施設にならなくてはいけない。やはり市民サイド、市民目線で、こんな施設が横</p>

	事務局	<p>浜にあると市民が誇れるような施設になってほしいと思っていて、そういったものをベースに置きながらの評価シートになるべくしていただきたい。</p> <p>○六川委員におっしゃっていただいたことは、本当に全部の施設のベースになるところだと思うので、そこを共通理念としてきちんと示しながら、拠点のそれぞれの強みはどうかというところが整理できるといいと思っている。</p> <p>新しい評価シートを作った一番の目的は、成績表とかではなく、何のためにやっていくのかをきちんと確認しながらやっていきたい。そこが一番大切なので、そこは見失わないようにしていきたい。</p>
	木村委員	<p>○このシートですごく重要なのは、冒頭の市と運営団体が共有する中長期アウトカムの部分が、しっかりとお互いに認識できているかということと、ほかの拠点がどうなっているのかが相互に見えていることも重要なのではないかと思った。</p> <p>それと横浜市全体として見ると、財団が担っている直接的に市民がやってくる場所としての機能もあるので、そこと競い合う必要もない。市全体として様々な文化芸術活動があるので、創造界限拠点だけではない、ほかの拠点も含めたマッピングがあった上で、この創造界限拠点に関しては何をアウトカムとして設定して、それぞれが拠点同士でどうなっているのか、大きなマッピングが示された上で、まずはそこを検討するべきなのではないかと思った。それが見えてくると、評価する側も、よりクリアに焦点を絞りやすくなっていくと思った。</p>
	岡部委員長	<p>○全体として最終的に市としての評価や、現状などを発信するところも必要なのかもしれない。</p>
	木村委員	<p>○例えば年に1回、市役所のアトリウムで、そういったことが発表されるような場があってもいいと思う。</p>
	岡部委員長 恵良氏	<p>○ただ、その発表の仕方をどうするかを考える必要はあると思う。</p> <p>○資料4のタイトルの「事業評価」は、「事業観測」という言葉に替えて捉えるほうがよいかもしれない。そういう言葉から伝えないと、説明される立場の方は、読み方が硬くなって評価の結果、何がよくて悪いのかということになってしまうことが懸念される。観測と言う姿勢で、新しいことが分かった、これを基に活動していくとかの話に持っていけるとよいと思う。評価という言葉はテスト視点になってしまう。少し言葉の表現を考えるのもよいのでは。</p>
	六川副委員長 木村委員	<p>○評価ということは、少し上から目線に聞こえてしまう。</p> <p>○それは、恐らく資料6のイメージで、これは拠点側が出すものではなく、行政側が出してつくる資料になる。こういう形で実現できているというようなことを最終的に示していくところを目標にしたほ</p>

		うが、対外的にもいいと思う。
宮尾委員		○アウトカムをすり合わせる分科会を行うとあるが、委員も参加するのか。議論する中で、なるべく現場の現状を委員としても見たい。現場が抱えている現状の不安や、こういうことを目指す施設だということを、委員も含めて現場で理解し合えたほうが、今後、評価をするという意味でも信頼度が高いのではないかと思ったので伺った。
事務局		○この話題が先日の分科会が出た。まずは、分科会委員で6拠点を分担していただき、次年度のシートをつくっていく方向で決まったが、もし委員会委員の皆さんも、それぞれ担当を持っていただき、参加していただくことでも可能と思いが、逆に皆さんいかがか。
岡部委員長		○今年度の話か。
事務局		○今年度は、事業評価分科会がそれぞれ拠点の担当をしていくので、それぞれの担当拠点へ一緒に入っていて、そのアウトカム指標については御議論いただきたいと思っている。 先ほどこちらから御説明した本委員会の担当拠点制をとというのは、令和7年度の評価からになるので、来年度からそういった担当制を設けさせていただければと思っている。
岡部委員長		○承知した。宮尾委員よろしいか。
宮尾委員		○承知した。
恵志委員		○来年度からは、6人委員がいるので、一人一拠点ということでもいいか。
事務局		○その予定だ。
恵志委員		○我々委員の負担も考えていただき一人一拠点にしてくれたと思っているが、実は1つよりは2つぐらい担当して、比べられるほうがいいと思う。全体を様々な目で見るとというのは、全部を見ることはできなくても、1人の委員が2つぐらい担当できると、何か双方いいのではないかと少し感じている。
木村委員		○その意見は私も賛成だ。正副がいたほうがいいと思った。代表者は1人だが、副でもう1人いるという状態になっていると、1対1で拠点と対峙するみたいな状態にならず、安心だと思った。
岡部委員長		○同意見だ。
事務局		○大変ありがたい御意見で、我々としてもそうしていただければと思うが、ただ、委員の皆さんとてもお忙しい方ばかりで、この委員会の日程調整だけでもかなり大変な状況なので、我々としてはそこを慮り、お一人という提案にさせていただいたところだ。検討したほうがいいのか。
岡部委員長		○事務局で御検討いただきたい。
事務局		○承知した。

	<p>岡部委員長 ○では、以上でよろしいか。 (了承)</p> <p>岡部委員長 ○では、これで審議事項(1)は了承とさせていただきます。</p> <p>審議事項(2)：旧第一銀行横浜支店運営事業者公募の結果について</p> <p>事務局 <事務局より公募結果を説明></p> <p>その他 事務局 <事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュール等について、事務連絡が行われた。></p> <p style="text-align: right;">【閉会】</p>
資 料	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録(令和6年7月25日開催分)</p> <p>④ [資料3] 今後の事業評価について</p> <p>⑤ [資料4] 新事業評価シート(案)</p> <p>⑥ [資料5] 令和5年度事業評価シート</p> <p>⑦ [資料6] 英国の事業評価指標例</p> <p>⑧ [資料7] 旧第一銀行横浜支店運営事業者公募結果について</p> <p>⑨ [資料8] 旧第一銀行横浜支店運営事業者選考報告書</p>
特記事項	